

AdBlue® Schatz NEWS

AdBlue®はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標です。 Registered trademark of the Verband der Automobilindustrie e.V.(VDA)

Schatz 北陸プラント始動

Schatzグループ12番目の工場となる富山プラントが富山問屋センター内にて始動いたします。

現在北陸エリアは東海プラントから運び込んでおりましたがよりきめ細やかなサービスを展開するため富山問屋センター内にプラントを設置して製造・販売を開始いたします。

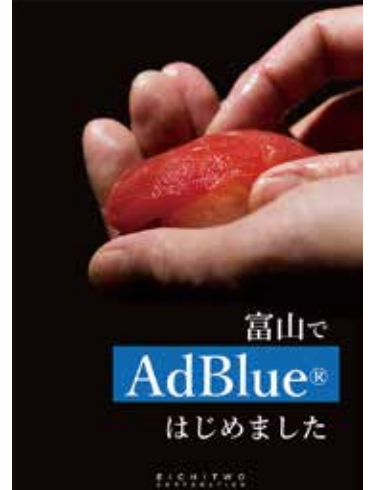
事業展開を担うのは株式会社エイチツーとなります。

エイチツーはポンプメーカーが主たる業務となりますが、水関連事業についてはエキスパートであり、Schatzが使用しているプラント他すべての機器はエイチツー製造のものであります。

Schatzグループは、各工場からお客さままでの距離が半径150km以内でカバーすることがユーザー満足度を維持するポイントと考えております。

北陸・長野エリアのお客さまに満足いただけるよう邁進する所存です。

株式会社エイチツー 愛知県名古屋市中川区澄池13-25 TEL: 052-364-8841



【尿素市況】12月半ばに輸入価格は反発、国内市況の上昇を受け

輸入尿素価格は12月半ばに反発した。リム情報開発の調べでは、円建て日本着価格は16日時点でトンあたり87,000円台半ばとなった。2日時点で80,000円台半ばまで下がったが、大きく反発した格好だ。

三井化学が12月から国内の尿素卸価格をトンあたり20,000円程度引き上げた。アドブルーメーカーなどの需要家に対しおおむね値上げが浸透、国内の尿素市況が上昇した。輸入玉に割安感が広がり、買いが優勢となった。

主要輸出国の中国では冬場の暖房需要が高まった。尿素の原料となる液化天然ガス、石炭が暖房用に優先的に回され、尿素生産減少につながる可能性があるとの見方が相場の下支えとなった。



なお、中国は23年1月以降、尿素の輸出を停止するとの観測が伝えられているが、当局からの明確な方針は12月中旬時点で打ち出されていない。(リム情報開発の週刊『クリーンエネルギー』記事を編集加工)

アドブルーがこぼれたらどうなるのか？

アドブルーを車両への補充の時、地面にこぼしてしまった時、対処に困る事はありませんか？

今回はそんな「アドブルーをこぼした時」の対処について解説します。

まずは車両へ補充する際にこぼしてしまった場合、すぐにウエスなどでふき取るようにして下さい。アドブルーは尿素と純水の混合液で、人体には無害な無色透明の液体ですが、

鉄や銅、アルミを腐食させるので錆などの発生原因となります。ですので、車両内にこぼれたらしっかりふき取ってください。

次に地面にこぼしてしまった場合です。アドブルーに含まれる尿素成分は乾燥すると白く結晶化する場合がありますので、水などで流してもらおうのがベターです。

ちなみに、尿素は「肥料」の三大要素である窒素を多量に含んでいる為、濃度によっては草花に対する栄養にも、除草剤にもなりうるので、大切な植木への流れ込みは避けた方が無難です。(AdBlue®周辺機器メーカー：株式会社エイチツー情報提供)

